

## 演奏会レビュー

「恐るべき技巧そして、紛れもない魅力の持ち主」 ガーディアン (The Guardian)

「彼の演奏は忘れがたく素晴らしく、全てがうっとりさせる優美さ」

「見識のあるピアニスト」

「ティリモは非常に純真でシューベルトに相応しい演奏家だ」

「輝かしい見事なベートヴェン」

「ティリモは感激させるピアノの詩人」 デイリー・テレグラフ  
(The Daily Telegraph)

「彼の演奏は、過去の世代の『偉大さ』を持っている。彼を聴くとソロモンやアラウ、ケンフ、サーキン、バックハウス、そしてルービンスタインを思い起こさせる。最高の音楽家が作曲家に対してのすべての任務を果たしたことを、皆が一貫にこの演奏会を通して感じたであろう。」 ミュージック アンド ビジョン  
(Music and Vision)

「優れたピアニストがたくさん存在する今日でさえ、心からの表情豊かな音楽思考、申し分のない技巧は、彼を類まれな素質の演奏家にする。」 サンデー・タイムズ  
(The Sunday Times)

「鍵盤の音色から成る全ての陰影は、見事な熟練である」

「彼は全ての人の心を溶かすことができる」 タイムズ (The Times)

「ベートーヴェン・ピアノソナタ作品109では、ティリモが全ての時代の偉大なピアニストの一人であるということを証明した」 ヘレフォード・タイムズ  
(The Hereford Times)

## レコーディング・レビュー

### モーツァルト 全曲ピアノ曲集 (Regis)

「ソナタ・ハ短調 K279とニ長調 K284の冒頭の強力なアーティキュレーションはEMIが出版した1970年代のバレンボイムに類似しているが、ティリモの描いたモーツァルトの感情豊かな第二主題はより優美である。モーツァルトにおいて不可欠なオペラ的性質の構成を強調している。ゆえに、変ホ長調 K282 アダージオにおける冒頭では、比較的淡々とした内田光子よりも、彼が非常に表情のある特質を出し、素晴らしく甘美なベル・カント旋律を用いたことは予期できた。」 BBCミュージック・マガジン (BBC Music Magazine) (五つ星)

## ラフマニノフ ピアノ協奏曲 第2番、パガニーニ・ラブソディー (CFP/EMI)

「刺激的で説得力のあるレコーディング。そして言うまでもなく音楽界をリードするものだ」 グラモフォン (Gramophone)

「今まで聴いたパガニーニ・ラブソディーのレコーディングの中で最高のものだ」 ファンファーレ (Fanfare, USA)

「情熱的に取り組んだ演奏…。非常に推薦する。」 エドワード・グリーンフィールド、(Edward Greenfield, BBC)

## ブラームス ピアノ協奏曲 第1番 (CFP/EMI)

「バレンボイム (HMV)、アラウ (Philips) もそうだが、ライブ演奏のように意識を引き付けられる」 グラモフォン (Gramophone)

## ブラームス ピアノ協奏曲 第2番 (CFP/EMI)

「言うまでもなく、これはブラームス・変ロ長調の中でもファースト・クラスの演奏だ。このあまり知られていないリリースは、これだけ多数あるのレコーディングの中でも最高の3, 4つのレコーディングの中に入る」 ハイ・フィディリティ (High Fidelity, USA)

## ショパン ピアノ協奏曲 第1番、第2番 (Alto)

「ティリモはペライアとツィマーマンのランクに匹敵する…。詩的な感覚の卓越…洗練された優美さ…全ての小節に見られる自発性…幻想にふける…生き生きしていて…輝いたダンスのリズム。」 ペンギン・ガイド (Penguin Guide)

## 特別イベントのレビュー

### ショパン 全曲集、キングス・プレイス ロンドンにて

「ショパンのリサイタルで『なんと素晴らしいピアニストだろう』とではなく『素晴らしい作曲家だ』と思わせるとは稀だ、そして、それは確かに演奏家への最高の賛辞である。」 デイビッド・ナイス、アートデスク、2010年3月 (David Nice, The Arts Desk)

「非常に優美で芸術的なピアニスト、マルティーノ・ティリモはショパンの他にもたえず偉大なロマン派音楽を弾いてきた。ゆえに、良く言い換えれば、高貴な演奏家のような巨匠を再発見する良い機会であった。」

ティリモは不思議な知恵をピアノで披露する。他が空虚を埋める時、彼は場所を得る。ショパンでは、エベレストの高さまで上り詰め、スノードニアの丘陵地帯を放浪するかのよう。 (個々の計測を通して結晶柱の色の分解と透明度。) ティリモの弾き方は願望とはかなさを知らしめるためのショパンの素晴らしい才能を表現するためのもの。この壮麗な演奏会で示した様に、ティリモとピアノはショパンの偉大さを明らかにする上で切り離すことができない。」 エドワード・クラーク、クラシカル・ソース、2010年2月 (Edward Clark, Classical Source)

「驚くべき偉業」 デイヴィッド・ナイス、アート・デスク、2010年7月 (David Nice, The Arts Desk)

## ベートーヴェン ピアノ協奏曲 全集

(ドレスデン・管弦楽団をピアノから弾き振り)

「注目すべきスター：マルティーノ・ティリモのシリーズの初めの2つの演奏会は、この上なく素晴らしかった。彼は見事なピアノ演奏とオーケストラを想像力豊かに誘導することで自身の素質を明らかにした。ソリストとオーケストラの息を呑むような掛け合いは、素晴らしかった…このような試みは珍しく、センセーションを生み出した。」 ドレスデン・ユニオン (Dresden Union)

「ピアニスト・ティリモは最上級の多くの才能で私たちに魅了した。彼のピアニストとしての大きな業績に限っても尊敬に値するが、指揮が目に見えるか否かかどうかではなく、オーケストラと意思疎通できるインスピレーションの明瞭さも素晴らしい…驚きの音楽構成。パートナーの音楽解釈は調和、融合し…万雷の拍手の二夜だった。」 Sächsische Zeitung, Dresden ドレスデン

ロンドン ロイヤル・フェスティバル ホールにて、

「独特の率直さと気楽さの入り混じったベートーヴェンだった。ベートーヴェン・ピアノ協奏曲をマルティーノ・ティリモがドレスデン 管弦楽団をピアノより弾き振りしたので、快く自然に進んだ。彼は自身ではなく、作曲家の意図を率直に伝えた。斬新で輝いている彼の協奏曲第3番は無理のないテンポで、より印象的に協奏曲『皇帝』挑んだ。」 ガーディアン (The Guardian)

## 指揮者としてのレビュー

「オーケストラの奏でる、ティリモの音楽家象像からの力強いインスピレーションはシューベルト 交響曲ロ短調でより明らかになる。交響曲に対して、このような徹底したアイデアの持ち主が振る指揮は壮大だ。非常に良い演奏はめったに聴けない。」 Sächsische Neueste Nachrichten

「指揮者でありシューベルトの学識者であるティリモの指揮には、未成交響曲の魂が宿っている。彼の指揮による、この二つの楽章はスリル満点の経験になった。

彼の威厳と優美な指揮はオーケストラと観客を魅了した。ドヴォルザーク 交響曲第8番ト長調 作品88では、自由と奥深くから沸き上がる歓喜をこのうえなく楽しく表現した。夢を信じることを後押しするような、何とわくわくする展開だろうか！自信、喜び、大あらしの踊る様なフィナーレ！」 **Sächsische Zeitung**

「ティリモが指揮台に上がるたびに、ドレスデンの管弦楽団の音楽家たちは、大きな偉業を達成する心を用意をする。

ティリモが熟達した音楽家であり、感動的な指揮者という証言は広まっている。モーツァルトの音の世界で彼の優れた感性が明らかになった… ハフナー交響曲では注目すべき指揮の技と、音楽の魂と響きをすがすがしく披露した。一大喝采を浴びるにふさわしい、完全成功なる演奏であった。」 **ドレスデン・ユニオン (Dresden Union)**

レビューやその他詳細については、英語版の「経歴」「レコーディング」「レビュー」、「レパートリー」、「オーケストラ」、「お知らせ」等をご覧ください。または、「お問い合わせ」から直接、情報請求してください。